

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.22

2006.FEB.

発行日/2006年2月20日(年4回)

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178-2 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

鷲澤長野市長・市川NUPRI理事長 新春対談

2006年NUPRIの役割とは

内外の人々が笑顔で交流する 活気に満ちた地方都市・ 長野市のために



元日の晴天から一転、記録を塗り替える豪雪とともにスタートし、長野市内各所に除雪作業の音が響くこととなった2006年の新春。会員の皆さんは、どのような思いで新たな年を歩み始められたでしょうか。

昨秋は、NUPRIが推薦母体として誕生した鷲澤正一長野市長が2期目の再選を果たし、合併2年目と相俟って、長野市政も新しいスタートの年を迎えました。私たちNUPRIは今年、創立12年。干支でいえば、ちょうど一回りの歴史を刻むこととなります。長野市政と手を携え、長野市の発展を支援する組織として、今後の取り組みを真剣に模索する時期を迎えているといえるでしょう。

そこで新春にあたり、鷲澤長野市長と市川理事長との対談を実施、長野市のさらなる活性化と発展に向け、NUPRIが果たすべき役割と使命について忌憚のない意見交換を行いました。その模様を誌上でお伝えします。

出席者

対談/鷲澤 正一 長野市長
市川 浩一郎 NUPRI理事長
司会/滝澤 芳一 事務局長(理事)

文中敬称略

「行ってみたい」魅力に満ちた都市の創造

司会 新年おめでとうございます。昨年末来の未曾有の豪雪で、新年早々、市長のご苦労は絶えないことと思いますが、お時間をいただきありがとうございます。

本日は、就任2期目を迎えた市長と理事長が率直な意見を交換し合うことによって、創立12年目を迎えたNUPRIが、これからの長野市の発展に貢献するためにテーマとすべきことは何かを探ろうという目的で、対談を企画いたしました。今まで長野市街地活性化の縁の下の力持ち的存在として地道な活動を展開してきたNUPRIですが、今後、社会的にもっとアピールしていく必要性も感じています。その辺も含め、自由で忌憚のない意見交換をしていただきたいと考えています。

市川理事長(以下市川) NUPRIは、鷲澤市長が理事長だった時代に掲げた「豊かな自然に囲まれ、文化の香り高い、住む者にとって誇りを感じられる街にしよう」という基本理念を軸としながら、鷲澤市長誕生後も市政と手を携える形で10年余り活動を続け、一定の成果をあげてきました。2期目を迎えた鷲澤市政でも、民間との連携は今まで以上に大きな課題かと思いますが、まさにそこにNUPRIの役割があると見えています。

鷲澤長野市長(以下鷲澤) 長野市の個性を確立していく上で非常に大事なものは、長野が東京のような大都市ではなく、かといって何もない田舎というのでもなく、自然に恵まれた環境の中で、多くの人々が「住み

たい」「学びたい」「遊びたい」「休みたい」場所であると感じてくれるような要素をたくさん包括した「都市」だという点にあると認識しています。今後、長野市の人口を増やしていくことが物理的に不可能である以上、経済面から見ても、「交流人口」を増やすことが、これからの政策の中心になるでしょう。そのためにも「選ばれた都市」をめざさなくてはならない。内外のより多くの人々に「長野市はいいところだな」と感じてもらえるような街づくりを進めていくことが、市長としての私の目標のひとつでもあります。民間活力の導入を行って、官民一体となり一つの目標に進むことが重要と考えています。

当然ながら、長野市全体をひとつの個性で括るのは無理です。地域ごとの個性や特色を生かしたいいくつもの軸が独立した存在としてありながら、市全体として大きな魅力になっている…という状態が理想的ではないかと考えます。そのためには、そのエリアに住んでいる人々、そのエリアで産業を展開している人々が、「自分たちはどうしたい」という明確な意思を持って街づくりに取り組むことが不可欠です。その上で、そのエリアに何が必要か、行政として何ができるか、民間と提携してどんな方向へ持っていけるか、ということを考えていかなければいけないと思いますね。

市川 NUPRIが過去10年あまりにわたって取り組んできた施策は、長野市を住みよい町にしていくことに加え、外の人々から見て「行ってみたい」、「選ばれる」街にすることに最も重きを置いていました。中心市街地の活性化もそうですし、農業施策のひとつとして取り組んだ「りんごの木オーナー制度」もそうですね。





特に観光施策として取り組んだ「エコール・ド・まつしろ」は、非常にいい実績となったと思います。観光を活性化するには「商売」「経営」という視点がいかにか大切かということも実感しました。なかなか腰が重かった松代地域の人が、「利益を上げるつもりで取り組まなくてはだめだ」という市長の一喝で目を開かされ、自ら行動するようになったのですから。尻すばみが懸念された2年目が思いのほかよかったです。市の施策を受け身的に待つのではなく、地域の人々が自分たちの創意工夫で松代に人が集まり、お金が落ちるような仕組みを作ったからです。そういう意味でも、街づくりのひとつのあり方が示されたと感じています。

鷺澤 その一方で、「エコール・ド・まつしろ」のようなイベントをはじめとする地域の活性化には、ボランティアの方々の活躍が必要不可欠です。ところが彼らは「利益」とか「商売」とかという言葉に大いに反発する。地域を「経営する」という視点から、双方を納得させるのには、実に苦慮しましたが、それを乗り越えて成功した事例としても、松代の成果は意義が大きいと言えるでしょう。

市川 私は、松代施策は「選択と集中」の端的

な成功事例と見ております。今後の長野市の街づくりの手法として、ひとつのモデルと言えます。NUPRIの今後の方向性のヒントでもあります。

鷺澤 「選択と集中」は確かに有効ですが、行政の立場でそれに取り組もうとすると、各方面から批判を受けることも少なくありません。そういう意味でもNUPRIのような民間の皆さんの組織が主体性を持って取り組む方が、スムーズにいくんじゃないかと思えますね。

集客力のある観光への視点

司会 NUPRIとしては、この先、長野の将来を見越しつつ、内側の「中心市街地」、外側の「観光地帯」、間にあたる地域を「農業・工業地帯」というゾーニングでとらえています。やや強引ですが、このくらい思い切った見方で街づくりを考えていいのではないかと考えています。

鷺澤 そういった独自のゾーニングは、民間がやってこそ意味があるでしょう。そこに、中心市街地における「都市観光」の視点も、ぜひ加えて欲しいと思いますね。私は以前から、スペインのバルセロナのように「まち並みそのものが観光資源になる」という要素が、長野市には必要だと思ってきました。放っておいたら同じ

ような無機質な建物ばかりが市街地を埋めていく傾向には警鐘を鳴らしたい。だから市としても景観賞に力を入れているんだけど、まだバラけているという印象はぬぐえない。野外彫刻もそうですね。長野市には現在、130体を超えた野外彫刻があるのに、「野外彫刻を見に長野へ行く」という話は聞いたことがない。PRもヘタなんだよな。いずれにしても、行政主導で特定のエリアを集中的にてこ入れするわけにはいかないので、各エリアの人々がそれぞれにそのエリアの個性を育んでいけるような仕掛けを作っていくことが大事でしょうね。

市川 そういった仕掛け作りの役割がNUPRIにあるわけですね。松代の例を考えても、「集中」の効果は大きいですからね。次の施策として、戸隠や鬼無里に集中させるのも悪くないと思っっているのです。松代で成功したように、戸隠や鬼無里へ足を運ぶからこそ目にできるもの、行かなくては味わえないものを、しっかりと定義づけ、広くPRすることが重要だろうと。

鷺澤 3年後には、鬼無里から信州新町までの道も、そうとう良くなる見込みなので、タイムリングも悪くない。実は個人的に、飯綱、戸隠、鬼無里と続く広大な地域について、観光エリアとしての魅力を高めていく方法を模索していたところなんです。NUPRIにもぜひ期待したいですね。



求心力のある人材育成のために

司会 長野市街地を見ていると、松代の例を取っても、地域の中で求心力と行動力のある人を育てることが不可欠と思われれます。そのための運動を応援し、元気づけるのも、我々NUPRIの大きな役割と認識しています。戸隠に関しては、スキー場民営化に向けて地域の皆さんを元気づけに、すでに市長ご自身が動いておられますね。

鷺澤 戸隠スキー場では、平成2、3年には55万人にのぼったスキー客が、昨年度はついに10万人を割り込んでしまったんですよ。市としては、戸隠村との合併にあたりスキー場の負債10億円を引き継いでいる。大変なことですが、しかし、それでダメになるとは私は思わない。今季は雪も多いし、再興のいい機会です。そこで、昨年初冬、シーズンに先がけて地元の関係者全員を集めて問うたわけです。まずは今シーズンをどう「経営」するか、そして民営化に向けて皆さん自身が「どうしたいか」。この2つの案件を平行して考えてほしいということを伝えた





ところ、期せずして拍手が起こったのですが、要するに地域の中で求心力を持った人を育てることが急務だと実感したわけです。自分たちの地域を「こうしたい」と言える人、行動できる人、そして「あいつならやってくれる、ついでいこう」と、周りの人々に思わせるようなリーダーを、強引にでも育てないか。

市川 中心市街地では、NUPRIが応援している女性グループ「長野クラッセ」が、今、それをやろうとしていますね。各拠点でリーダーとなる存在を育てようと、組織を広げている。彼女たちを元気づけ、リーダー育成を支援していくと同時に、そういう活動に共鳴し、感動する人々を増やす努力もしないといけないと思いますね。

中心市街地にもっと魅力と活気を

司会 鷺澤市長はNUPRIから誕生した、いわば「まちづくり市長」です。それだけに、ぜひ「都市計画家」としての手腕を発揮し、長野市の活性化を推進していただきたいと考えています。中心市街地については、整備事業が順調



に進み、活性化の道筋がついたという見方がある一方で、中央通りの空洞化は相変わらず深刻な問題と言わざるを得ない状況です。その点に關し、今後の展望はいかがでしょうか。

鷺澤 銀座A1地区の「TOiGO」とその周辺の再開発が、新しい街づくりのきっかけになるだろうとは思っています。

市川 それにしても中心市街地の活性化は、日本中どここの街でも問題になっていますね。ということは、中心からその外側へ人が流れていくのは全国的な傾向であり、もう止めることができない人の動きなのではないだろうかと思うこともあるのです。とすれば、それを前提にした上で、街の魅力を再考するというのも、逆転の発想として有効かもしれないと思うのですが。

鷺澤 行政の目で見ただけの場合には、中心市街地から周辺部へ活性化をスクロールさせていくのは、社会基盤整備などのコストがかかりすぎるといいう問題があるのです。もうひとつ、「食」の自給率を高める、あるいは維持していくためにも、中心市街地の周囲に広がる農用地をいたずらに市街化するわけにはいきません。中心市街地を「職」と「商業」のエリアにして、「住」を郊外へ集中させれば、今までは多少意味合いが違いう活性化の可能性を模索できるかもしれない。路面電車を走らせるという夢を見ることも、まあ、あるわけですが、現在の長野市は住宅地が

分散し過ぎていて、どう考えても効率が悪いんです。新しく幹線道路が開通するたび、そこを立地とする大型店の開店によって、人口集積が分断されるといいう現象が起これり続けています。

市川 いっその中心市街地を住宅地化するという発想もあるのでは？周辺を商業地域にするとか。

鷺澤 だが、中心市街地は、地域の中心として発展してきた歴史と文化を持っているので、それを継承していくことも意義があることだと思いますね。利便性とか効率性だけを優先した底の浅い街づくりはしたくないと考えています。たとえばイタリヤのドウモのように、中央通り全体をひとつの大きな商業集積ととらえ、一貫したコーディネートでデザインしてみたらどうだろうか。先ほどの「街並み観光」の要素ともあいまって、おもしろい街になるのではないかな。

市川 それはおもしろい。交流人口が確実に増え、活性化に



つながるでしょうね。それにしても、中央通りの空き店舗が年々増えていくのがネックですね。NUPRI会員の中には、空き店舗には税金を課し、安く貸したら税金を優遇してはどうかという意見も出ています。

鷺澤 なかなかおもしろい、新鮮な発想ですね。私は駐車場に関して、同じようなことを考えていました。昨今は、あまりに安易に店舗や建物をつぶして駐車場にしてしまう。しかし、課税されて投資効率が悪いと分かれれば、建物を壊すことを躊躇しますね。街並みが隙間だらけになっていくのを、少しでも抑えられないかと考えているのです。実施にはいろいろクリアなくてはいけない問題があるとは思いますが、いずれにしても、中心市街地を元気づけていくという役割を、NUPRIには今後も担ってほしいと思います。

市川 そうですね。その拠点として、会員や街づくり関係者などが自由に集い、意見交換や研究ができるサロンのような動きも出ています。専任者の常駐など、課題はありますが、前向きに考えていく所存です。

鷺澤 しばしば感じるのですが、組織がいろいろな事業を進める上で、多忙な仕事を持つ会員だけでは時間も活動の幅も限られてしまいがちですね。ある程度、知識やスキルを持った専任者を置くことで、ワンランク上の活動につながるっていいと考えます。民間ならではの発想と行動力で、長野市の活性化につながる新たな施策を打ち出してくることを大いに期待しています。今年もよろしくお願ひします。

市川 こちらこそ。長野市の魅力を向上させるために、今後手を携えていきましょう。

司会 本日はどうもありがとうございました。

6年目を迎え、実り豊かに りんごの木 大好評のうちに収穫

新産業創出研究部会 ～りんごの木オーナー制度～



新産業創出研究部会の活動として、6年目を迎えたりんごの木オーナー制度。飯綱町三水の果樹園で丹精こめて育てられたりんごの収穫が、昨秋も無事行われ、オーナーたちが、待ちに待った収穫体験を楽しみました。昨秋は天候に恵まれて、蜜ののりが大変よく、一段とおいしいりんごが収穫されたようです。当日は、鷺澤市長夫婦も参加して収穫を行い、来ることができないオーナーには、農園からご希望の場所へ発送されました。

当オーナー制度では、地元の宮本農園のご協力で、土づくりからこだわった安心、安全な栽培を実現。りんご栽培に適した、日当たりと水はけのよい三水の環境で、無袋で完熟まで育つため、肌は少々ざらついています。味が濃厚でおいしいと評判。オーナーも年々増え続けています。



会員全員に呼びかけ

NUPRI 忘年会 にぎやかに開催

平成17年12月21日（水） 於／ホテル国際21

昨年の12月21日、ホテル国際21でNUPRIの忘年会が行われました。

今まで、忘年会は役員、研究部会などが、有志で個々に行っていましたが、昨年は初めて会員全員に呼びかけ、大勢の参加でにぎやかに開催。鷺澤長野市長も参加され、多彩な話題に花

が咲くなごやかな交流会となりました。

アトラクションでは、長野市内で活躍している「小池良一&ナレオ・ハワイアンズ」の生演奏が登場。市川理事長も演奏に参加して、大喝采を浴びる一幕もありました。参加者は、日頃の忙しさからひととき開放され、時間の過ぎるのも忘れて忘年会を楽しんだようです。

NUPRIの活動では、会員が一堂に集う機会が限られているのが実状ですが、その数少ない機会のひとつとして、楽しくも充実した一年の締めくくりとなりました。

